

## 「インターアクト

### 地区外研修について」



インターアクト小委員会  
委員長 高橋 章

例年地区外研修は、他地区の年次大会に参加する形でしたが、今回はIAの目的にある“国家及び世界の問題についての知識と理解を深める”“国際理解と親善の推進”の2点に重点を置いた研修を計画しました。

世界の問題を知る目的でJICAちきゅう広場を訪問、セネガルのタンバグンダに派遣された上原誠子さんより、少年兵士やエイズ、貧困、飢餓、地雷など、アフリカの抱える問題をお話し頂きました。

午後は国際理解と親善を目的にトルコ共和国大使館を表敬訪問しました。

8/9の山形新聞で紹介されたのでご存じの方も多いたと思いますが、さくらんぼ発祥の国がトルコ共和国です。そして山形は日本で一番さくらんぼを生産している土地です。

寒河江市はトルコ共和国のギレスン市と姉妹都市を結んでいます。ギレスンとはトルコ語でさくらんぼを意味するそうです。

大使館では通常は開放していないセレモニールームにてウエルカムドリンクを頂き、その総大理石の見事な空間を肌で感じてきました。

その後、穂山秘書の通訳でアルプ・アタクジャン参事官に、生徒からのトルコ料理や観光についての質問に答えて頂きました。

予定時間を大幅にオーバーしましたが、生徒全員の質問に快く答えて頂き、最後に全員で記念撮影を行いました。

次世代も山形とトルコ共和国の友好関係は続くようにと願っての訪問でしたが、IAは見事にその大役を果たしてくれました。

## 「地域奉仕グループセミナー」



国際奉仕委員会  
委員長 長谷川春海

7月27日、今年度より社会奉仕委員会とともに「地域奉仕グループ」という組織形態になった

「国際奉仕委員会」が、約180名の出席をいただき実施されました。

各クラブに於ける国際奉仕委員会は非常に歴史のある委員会ですが、今までの活動は、海外のロータリークラブや団体との交流などが主だったかと思えます。今年度より新しくグローバル補助金がスタートするということで、各クラブの参画意識も高く、充実したセミナーになったと感じています。

今年度、国際奉仕委員会としては

- ①クラブとしてのグローバル補助金の理解推進と実現
- ②地区としてのグローバル補助金の活用を図る為の活動、を掲げております。

2013～2014に於いては申請初年度でもあり、各クラブの負担軽減の為、地区主導（内容はクラブが主体）で申請等を行いたいと考えております。

グローバル補助金に関しては随時、申請が可能ですので、是非多くのクラブに申請していただきたいと思えます。

今回の委員会の開催にあたり、各クラブの海外との事業や、関わりに関してアンケートを実施しておりますので、参考にしていただきたいと思えます。



会場風景



特別講師：千川原公彦氏

## 「地域奉仕グループセミナー」



社会奉仕委員会  
委員長 阿部栄一郎

今年度新関ガバナーは、6つの地区目標を掲げております。

その中に、「未来の夢計画元年」という項目があります。そして重点項目には「東日本大震災復興支援」の項目があります。

今年度新関ガバナーからは、社会奉仕委員会としてはこの2つを重点的にやる様にと言われております。

まず「東日本大震災復興支援」ですが、新関ガバナーは県内に避難している方を対象に支援したいとの意向です。

7月18日現在、山形県に避難している方は8,359人おられます。多いときは1万人以上おられましたが、それでもまだ8千人以上おられます。

最も多いのが、山形市で3,142人、次に米沢市で2,195人、ついで天童市で539人となっています。

個人情報保護法等の問題もあり、何処にどなたが住んでいらっしゃるのかを把握するのは非常に困難ですが、各市町村に何名住んでいらっしゃるというのは把握できますので、各市町村役所また県内のボランティア団体と連携を図り、どのような支援方法があるのかを検討しているところです。

社会奉仕委員会としては、避難者に対して

1. 安心できる場所を提供する。
2. 避難者同士の横のつながりを作る。
3. 意見・声を聴く
4. 集まりの中からリーダーを育成し各自自立を目指す。

等を目的として、各地域のクラブが協力し合っ  
てイベント等を開催し、そのイベントを通じて避難者の声を聴いて、その地域に合う支援をしていきたいと思  
います。

そして実りある効果を出すために、出来れば単一のクラブだけでなく、2つ・3つのクラブが合同でとか、また各ブロック単位での活動が出来れば、なお良いのではないかと思います。

地区としても、皆さんから頂いている支援金を有効に活用し、効果を上げていきたいと思  
います。

また、もう一つの「未来の夢計画」ですが、これは皆さんが3年前にR Iに基金として寄付した金額の25%を新地区補助金として使えます。今年度は金額として約4万ドルを2800地区として使えます。

この新地区補助金は使い道が比較的自由で、1回限りの小規模なプロジェクトであるとか、各クラブでの単独的なプロジェクトに使用できますので、今年度の各クラブの会長そして社会奉仕委員長さんを中心にこの資金を活用するため、2014-2015年度を目指してプロジェクトを立ち上げて頂きたいと思  
います。

ぜひ地域社会での奉仕活動に積極的に生かして頂きたいと思  
います。



新関ガバナー

## 2800地区 「地域奉仕グループセミナー」 開催と印象報告

7月27日（土）のセミナーは、県下集中豪雨による災害復興の途上、約180名の代表者により天童ホテルで開催。社会奉仕、国際奉仕、二つの委員会はロータリー共通理念の下に相互理解を深めるべく、すべて合同開催となった。新関ガバナーが掲げた6つの地区目標の内、次の2つが今回の重点目標になった。その①「未来の夢計画」としてR I基金還元金4万ドルを新補助金として地域奉仕活動に使用して頂きたい。その②「東日本大震災県内避難者支援」8359名の避難者に、ロータリークラブは適切な支援策を考える。

当日の特別講演で、千川原公彦氏は「避難者を固定的な概念で捉えないで、相手の状況を出来る限り深く掘り下げ、分析し、独創的に支援すべきである。」その卓見に目から鱗が落ちる思いだった。このセミナーで、高次元のロータリー理念を如何にして低次元の日常世界に還元し、実践・奉仕するかが問われ続けた。

ガバナー月信 副編集長 増川 誠